

## 保育計画成果報告書

法人名等	医療法人 秀恵会
施設名	シャインキッズ
報告者（役職）	高取 郁子（園長）
住所・連絡先	大分県大分市大在浜一丁目8番32号
	☎ 097-578-7830
	E-mail Shinekids2020@plum.plala.or.jp

### ○タイトル（保育計画）

輝く笑顔、ゆたかな心、健やかな成長を願い、成長発達が著しい乳幼児期に日々様々なものに触れ、遊びを通してゆたかな心と健やかな体の成長を育む。

### ○主な助成備品

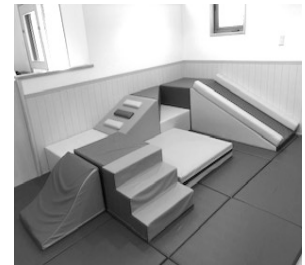
大型遊具（すべり台、階段、踊り場等）8台、マット20枚

## 1. 保育計画策定の目的

当園では、家庭ではできにくい運動を保育園の遊びに取り入れ、乳幼児期から体幹を育てバランスの取れた成長発達を促すため、毎日の保育の中で体を使った遊びができるよう、思い切り伸び伸びと動けるように系統を立てた大型遊具とマットを購入した。

文部科学省の幼児期運動指針に「乳幼児は全身を働かせて様々な活動を行うので、心身の様々な側面の発達にとって必要な経験が相互に関連し合い積み重ねられていく。体を動かす遊びなど、思い切り伸び伸びと動くことは、健やかな心の育ちも促す効果がある。」と言われている。

幼児期運動指針に沿って、乳幼児期の成長発達の著しい時期に全身を使った遊びがいつでもできるように、遊具はホールに設置し朝夕お友達が集まるまでとお迎えが来るまで好きなように大型遊具で遊べるようにした。初めは遊び方が判らなかった子どもたちが、保育士の少しの手伝いや声掛けで自分たちでルールを作るようになった。積極的に体を動かし、階段を上ってすべり台をすべる。ミニサーキットだが、どうしても逆を回りたい子どもに、「そっちじゃないよ。」「こっちだよ。」とか「○○ちゃん、こっちにおいて順番だよ。」等、自発的に声をかけるようになった。友達と一緒に遊ぶことの楽しさを共有し、自主性を育み、楽しい遊びの中で声を発し発語を引き出されるような遊びに取り組んだ。



## 2. 具体的な実施内容

### 0 歳児クラス

ハイハイができるお友達は、階段と踊り場、ミニ滑り台をセットにしたサーキットで「登る・すべる」と体を動かし手足の力を付け、動きと体のバランス感覚を育んだ。マットを部屋いっぱいに広げ、保育士が手伝いながらゴロゴロと横回転運動。一斉にハイハイ競争等でそれぞれができる範囲の運動を行い五感や固有感覚、前庭感覚の発達を伸ばすための基礎である体幹を鍛え、床上から坂道、階段ハイハイを行い手足の力をつけた。

さまざまな動きをして体幹を鍛え、平行感覚、バランス感覚を育て、五感（聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚）、固有感覚、前庭感覚の発達を伸ばした。



### 1 歳児クラス

自分でできることが増え、すべり台を見ると一斉に遊具に登り、すべり台ですべろうとするため、危険防止のために保育士が介入し「順番に行くよ。」「お友達を押さないでね。」と声掛けをしサーキットの順路に導いた。サーキットの遊びのルールを教えると、規則・決まりがあることを感じるようになり、好きなように登りながらも順番を待つようになってきた。

「先生。見て見て！」と、保育士の注目を集め、頭からすべり台をすべったり、仰向けで頭からすべったりといろいろなすべり方を見つけて教えてくれるようになった。自分からの発語が増え声も大きくなり、お友達とのやり取りや、保育士とも言葉のやり取りが増えてきた。



## 2歳児クラス

おしゃべりができるようになった子供たちは、保育士が介入しなくても自分たちで「〇ちゃん、こっちからだよ。」「(僕に)ついてきて。」と声を掛け合い、汗をびっしょり流しながら楽しく遊んでいる。踊り場からジャンプをして飛び降りたり、頭を下にして踊り場を利用して後転をしたりと発想豊かな遊びが展開されている。ホールで遊んでよい時間とお部屋に入る時間の区別がつき、保育士の「お部屋に入ります。」の声掛けにも、子ども達は今は遊びを中断しても後からまた遊べるとの安心感から、気持ちの切り替えができています。今何をする時間かの意識が育ってきた。遊ぶときに大きな声が出るようになり、保育時間でも同じように大きな声で自信をもって返事ができるようになった。



## 合同保育

大型遊具のサーキットを作り、登る・すべる・ジャンプ等や、一本橋、輪っか、マット、トンネル等を織り交ぜて、平衡バランスや転がる、這う等を取り入れ「体のバランスを取る動き」や「体を移動する動き」ができるようになった。「楽しい!」と声を上げて、言葉で楽しさが表現できている

また、常時ホールに設置しているためトイレの行き帰りや、保育室からホールに出た時、我慢できず遊具に駆け寄って「登る。すべる」をする子どもがいるが、サーキットを一周すれば満足して気持ちが切り替わり、友達や保育士の話を聞く姿勢が育ってきた。



### 3. その成果と評価

全身の体を動かす遊びは、易しい動きから難しい動きへ、一つの動きから多様な動きを獲得していくことができるようになった。朝と夕方方の自由時間は多年齢が混在しながら常に4～5名の子どもが大型遊具の上に登り、友達と群れて体を動かす遊びを楽しんでいる。遊びの中でルールを守り、コミュニケーションを取り合いながら、協調性が見られだした。自由保育の時間に30分から1時間、大型遊具の周りで体を動かしながら遊ぶことで、設定保育の時間では集中して課題に取り組むことができるようになり、自ら「これがしたい。あれで遊びたい。」と、自分の気持ちを表出できるようになった。

### 4. 今後の課題と展望

大型遊具を設置することで子ども達が自由遊びの時に好きなように遊べる場所を保証することができた。大好きな遊びの中で発達に応じた遊びや、自発的に体を動かすことで無理なく基本的な動きと、集団行動でのルールや社会性が身に付けられるようになった。保育士も子どもを主体とした思いや願いを受け止められている。

今後、成長・発達の偏りや凸凹が見られる子どもも楽しさや心地よさを共感し、得意なことを引き出し充実感や想像力、協力しあう子どもの姿を伸ばし、子どもの生きる力を育んでいきたい。

最後に、助成を得て念願の大型遊具を設置することができました。子ども達は大変喜んで遊んでいます。ありがとうございました。大切に使用させていただきます。

以上